

1977年東海テレビ制作「浮いてまう—岐阜県徳山村の愛惜—」資料

(東海テレビ) 一九七七年 岐阜県 揖斐郡 徳山村戸入にて		
(第一回分) 二月二一、二二、二三日		
原稿用紙 B5・横/万年筆・青/16枚		
	一行目	題名
1	花ぐるみの木は	花ぐるみ
2	春になると	
3	橋は赤くなければならないと	
4	冬になると	
5	木は 白い綿帽子をかむりました。	
6	自分の歩く道は	
7	人はダムをつくります。	
8	木は 山の力だ ということを 感じました。	
9	吹雪く夜に	
10	夜が あまりに深く 暗いから	
11	若い郵便やさんは二十九才	
12	村の人が	
13	人は	
14	降り積む 雪の	
15	この山里の 家々にも	
16	これだけの雪を 水にかえてためます。	
17	零下四度の朝。	
18	分教場には	
19	昭和五十二年二月二十日	

(東海テレビ) 一九七七年 岐阜県 揖斐郡 徳山村戸入にて		
(第二回分) 六月七、八、九日		
原稿用紙 B5・横・万年筆・青/52枚 コピーB4		
	一行目	題名
1	奥美濃の秘境と呼ばれた	
2	ある日 県知事が村に来て申されました。	
3	増山旅館の女主人がいました。	
4	笑い納めると	
5	古い家の仏間に飾られた額。	
6	上の子の名を 好平 といいます。	好平
7	夫は 戦死ということになっとなりますが	
8	あれは	
9	ひょっとして なァ	
10	戦地に召されて	
11	家を背に負うて	
12	三十三回忌を迎えた	
13	増山たづ子さんは 大正六年四月十五日生れ	
14	正のいた部隊は 精鋭部隊で	
15	そこまでいうと	
16	つり橋を渡ると	
17	一靖国神社の写真の上を指して。たづ子さん—	
18	貯水容積 六億六千万トン	
19	村の集会所のなげしには	
20	オ寺のグラフ	
21	雪の夜のあかるさ。	
22	初夏の徳山村には	
23	人間の戸口の上に	
24	谷の深さ	
25	ノラ犬に住む家はありませんでした。	村の家族
26	アマゴはビクの中でハネた。	アマゴ
27	水の中で	こけ
28	宿のおばさんが語ります。	
29	オバさんはいいます。	
30	木は補償の対象物です。	
31	山の田んぼに 機械はなかった。	
32	おじいさんと	
33	おじいさんが 一服すると	
34	馬坂峠	
35	馬坂峠 には お地藏さんが ふたつ。	
36	徳山村で乗ったタクシーの運転手さんは	
37	こんな険しい雪の山道を	
38	ゆうべ降ったユキは	
39	どの家の屋根棟の瓦にも	
40	きょうは 下の集落で	
41	つり橋の雪をかくのは	
42	雪の下から 墓も顔を出します。	
43	ゆうべ さくら橋のたもとに	
44	「ダムが出来る」	
45	「ダムが出来る」	
46	そのときから	
47	ダムが出来る。	
48	道路標識	
49	「ダム建設に注意」	
50	役所は	
51	六社神社の例祭は 四月十三日です。	
52	タクシーが平野に降りると	
53	私が 徳山村から 東京へ帰ってくると	

浮いてまう		
コピー (原稿用紙 B5・横) 28枚		
	一行目	題名
1	揖斐川の源流にある 徳山村へは 三つの道が通じています。	
2	五月五日の 笹もち	笹もち
3	五月の節句に	しょうぶ巻き
4	石臼がまわるとき	まわる
5	分教場の校庭に	盆踊り
6	やぐらにともる 盆踊りの提灯	踊る
7	まっくらやみが つつむ	輪廻
8	ほんとうの 静寂と くらやみの中に	山の宴 - 盆踊り -
9	こよしさんは	こよしさん
10	冬は 深い雪をこいで	
11	夜が すっかり明けると	
12	まだ ついている ゆうべのあかり。	入学式
13	四月はじめの入学式には	入学式
14	学校は	
15	先生は	
16	卒業するときは	
17	ダムも必要でしょうが	
18	国威宣揚 という	
19	馬坂峠の 日の丸。	夕日
20	戦後	峠
21	深い山奥の村	峠
22	弓なりの日本列島の中には	
23	馬坂峠	
24	日本のGNPは	
25	高水準の上に	
26	あれは 昭和三十何年ごろでしたか。	

1	峠	
2	岐阜から 六十八キロ	
3	ダムが出来るとき	浮いてまう
4	若者たちを 町へ	
5	峠を越えて 戦争に行った兵士たちは	
6	日本の経済高度成長期に 働き手として	

東海テレビ ”浮いてまう” 52年10月17日 送稿分		
原稿用紙 B5・横/万年筆・青/25枚		
	一行目	題名
1	深い みどりの中に	戸入
2	峠への道	
3	誰かが いつの間にか	お地藏さま
4	たいそう 長生きで	
5	お地藏さまの 着物の寸法を	
6	新入生 三人	苗
7	冬の雪に寝かされていた 杉を	杉おこし
8	土の肩でも たたくように	苗代づくり
9	さくらの花のように いさぎよく散れ	さくらの花びら
10	ここに散るのは	
11	人影のない	
12	深いまどりの山を 分けてゆく 夏の道	
13	村の道	
14	この道を	
15	村の道	
16	人の背丈	水没予定線
17	和尚さんは	説教
18	十九才で 戦病死した 川口 正さんの	梅干し
19	両親の隣に 長男の遺影	芝田ひさ子さん
20	何という広い 居住面積でしょう	
21	新天地 などといえば 外国へ行くような	移住地見学
22	古い家に残る 大きな佛壇ひとつ	
23	新しい土地に 新しく根を張るには	
24	日本に ふるくから伝わる 良いものを	
25	飾り気のない 自然が産んだ顔	戸入村
26	この 美しい雪	雪
27	ゆたかに降り積む 雪が	
28	ゆたかに栄える 戦後の日本が	
29	国の発展、	因果

東海テレビドキュメンタリー ”浮いてまう” (の中の詩篇)

東海テレビ放送台本用紙		
	一行目	題名
1	日本の庶民の 不幸のピーク	
2	昭和五十二年	
3	峠の道は	
4	国威宣揚 という	
5	峠を越えて 戦争に行き	
6	ダムが出来るとき	
7	峠を越えて	
8	若者たちを	
9	峠	
10	たとえば 川口 正さん	
11	峠	
12	村の道	
13	人が歩いて来た	
14	戦争中は 兵士たちが	
15	日本のGNPは	

ここにきて とくやま